

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3590800078		
法人名	有限会社サンメディカル		
事業所名	グループホームあかしあ保津		
所在地	山口県岩国市保津町2丁目6 - 3		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町受理日	平成23年2月9日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物内部の色も広さも施設のではなく、家にいるような落ち着きを感じることができます。食事は三食とも手づくりで職員と利用者によって調理しています。正月にはおせち料理を作るなど季節に合わせて食事を楽しめるよう支援しています。また音楽療法士による音楽療法を月に2回実施しています。利用者一人一人の目標を作成し、モニタリングや達成状況、職員の意見や解決すべき課題と対策、先生からの助言・感想等、細かく支援し、利用者の脳の活性化やリハビリ効果を図り、毎回利用者の楽しみとなっています。看護師が週1回健康管理や医療相談で訪問し、医療連携が図られていることと協力医療機関と密に連携をとっており、利用者や家族、職員の安心につながっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間でもあり食堂でもある共用空間は季節感や生活感があるように工夫され、雰囲気は明るく、職員や利用者同士が助け合いながら、和やかに暮らしておられます。毎月2回音楽療法士による音楽療法が行なわれ、利用者も楽しんでおられ、脳の活性化や生きがいにつながるように支援しておられます。転倒予防体操や口腔体操、ぬり絵、パズル、手仕事、ハーモニカや三味線の演奏、掃除、食事作り、片付け、編み物、手芸、生け花など、利用者一人ひとりの活躍できる場面をつくり、日々の暮らしを楽しみながら、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように工夫しておられます。。共用空間の壁面には、運営理念、介護理念、倫理規定を掲示され、職員は理念の共有と実践に取り組んでおられます。地域向けの事業所だよりを2ヶ月に一回作成して地域に回覧しておられ、事業所への理解や福祉、介護についての啓発を行われ、地域との関係を深めるように努めておられます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての職員は施設の運営理念を理解しており、常に運営理念の実現に取り組んでいる。運営理念を見えやすいところに明示している。	事業所の運営理念をつくり、介護理念、倫理規定などと一緒に掲示し、ミーティング等で確認し、職員は共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合への出席や一斉清掃など参加、団地内の美容院の利用、又グループホームの活動内容がわかるように定期的にあかしあ新聞を回覧板で回してもらうなど日頃から関係を深めるように努めている。	自治会に加入しており、自治会総会への参加や一斉清掃への参加、草取り、ごみ出しなどでつながりを深めている。地域向けホーム便りを2ヶ月に1回作成し回覧して、事業所への理解や福祉、介護についての啓発を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あかしあ新聞に認知症のことやグループホームのことなどをテーマに特集を組み、地域の方に理解してもらえるように努めている。自治会長や近隣商店に運営推進会議の委員になってもらっており、会議の内容でも理解を深めていただけるようにしている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を活かして日々の業務を振り返ることができている。	運営者、管理者、職員共に評価の意義を理解しており、自己評価書を配布し職員に記載してもらい、管理者がまとめている。全職員で自己評価に取り組むことで、業務を振り返る機会と捉えている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員である家族や自治会、消防や市の関係者などさまざまな角度から意見を頂き勉強になっている。そういった意見を運営やサービスの質の向上に活かしている。	自治会長、民生委員、理美容院経営者、消防署長、地域包括支援センター職員、家族（5～6人）、職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。現状報告をし意見交換している。出された提案や意見を運営やサービスの質の向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、サービスの向上に努めている。	地域包括支援センターや担当課とも連携し、利用者に関する相談や運営上の相談など、連絡を行うなど関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できる限り職員が寄り添うケアをしている。	身体拘束について職員は理解し、拘束のないケアに努めている。玄関は施錠しているが、利用者の思いや行動に配慮しつつ、外へ出たい利用者には付添うなどきめ細かな対応をしている。	・マニュアルの整備 ・鍵をかけない工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に積極的に参加し、そこで得たものを施設内で伝達講習として勉強会を開くようにしている。日頃から虐待につながらないように職員と話し合いの機会をもうけている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種支援が必要と考えられる利用者がある場合は随時関係者と話し合い、利用者の支援に結びつけていくよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に利用者や家族の立場に立ち、不安や疑問点が残らないように、十分な説明を行い理解・納得を得るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から苦情や意見をいえる関係づくりに力を入れている。運営推進会議でも議題として取り上げ、意見交換を行うようにしている。苦情・意見箱も設置している。	全ての家族へ運営推進会議への参加を呼びかけ、5～6人の家族の参加があり、家族の意見や要望が出されている。電話や面会時に家族の苦情や相談を受け、苦情受付記録に記録し、対応策を検討している。第三者委員が選任され運営推進会議へ参加している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングを行い、職員から意見や提案を聞いて改善につなげている。日頃から職員の声に耳を傾け、働く意欲の向上・質の確保につなげている。	月1回9時～10時半頃まで全員参加でスタッフミーティングを行い、ケアカンファレンス、業務改善、勉強会などを行っている。日頃から職員からは自由な意見や提案が出され反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や成果について把握するよう努めている。職員処遇への反映や評価を行い、向上心をもって働けるようしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学びの機会を事業として計画的に確保し、事業所内外の研修とともに職員が働きながら技術や知識を身につけていける支援を行っている。	内部研修は法人、事業所共に計画的に行っており、外部研修を受けた職員はミーティング時に伝達講習を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎、市内のグループホームの連絡協議会の会合に出席し、運営から現場の諸問題をテーマに意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っていること、困っていること、やりたいことを本人から聴き、また何気ない会話の中から得た本人の希望や思いを記録し、職員全員が情報を共有して、安心して過ごすことのできる関係をつくるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていること、要望等を最初に聴き把握するようにしている。不安に思っている事柄はなるべく家族に連絡し、状況を報告するなど関係を深めるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話に耳を傾け、ニーズを探るようにしている。グループホームとして出来る事を提案するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、排泄、入浴、調理、洗濯、生活場面全てにおいて、本人が今までやってきたこと、できていたことを介助を受けながらも、主体的にできるような関係作りをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あかしあ通信で身体状況や近況など報告すると共に、行事に参加していただくよう案内している。できる限り来所していただくように話し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、なじみの美容院や付き合いのあった近所の人や友人との交流を行っている。	馴染みの美容院の利用や、友人や知人等の面会や交流があるなど、関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あくまでも利用者の行動を尊重しながら、必要な時には職員が利用者同士の関係が構築できるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで医療機関が主なので、お見舞いや家族へのアドバイス等継続して行なえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をくみとるように努力している。、月1回のミーティングでは職員全員で一人ひとりの援助方針の確認を行っている。	共に暮らしながら、言葉や表情、しぐさ等を記録し、希望や意向、思いの把握に努めている。困難な場合は家族の意見や意向も聞き、本人本位に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聴いたり、馴染みの家具や品物を持ってきてもらい馴染みの環境をつくるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向をくみとるように努力している。言葉、表情、行動を記録に残し、月1回のミーティングでは職員全員で一人ひとりの援助方針の確認を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開き、職員間で議論し、援助方針を導き出している。家族と話し合い、合意を得ている。関係者の意見も採り入れた介護計画を作成している。	家族の要望や意見を聴き、担当職員の原案をもとに、職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月で計画の見直しをしており、状況に変化が生じた時は、その都度、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を常に職員で共有し実践で生かせるようにしている。 介護計画に日々の記録が生かされている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園との交流や近隣の理・美容院の定期的な利用、また消防訓練を通じての消防関係者との交流、自治会との連携など協働できる態勢づくりに努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と適切な医療が受けられるような関係ができている。定期受診以外の特別な場合は家族に同伴してもらうようにしている。	協力医がかかりつけ医となっており、定期的に受診の支援している。看護師が毎週1回訪問し、健康管理を行っている。24時間の医療連携体制でいつでも相談、助言、対応が出来る体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で身体に関する相談に乗ってもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、お見舞いなど数多く通い、退院に向けて病院関係者と打ち合わせを重ねたり、退院時のカンファレンスに参加したり、かかりつけ医に相談したり、関係者と常に協力し合いながら退院に向けた支援を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とかかりつけ医と事業所職員で治療方針や重度化した場合、終末期のあり方について、話し合いを持つようにしている。	看取り指針を作成しており、重度化や終末期に向けた方針が共有されている。その時々々の事例や必要に応じ、治療方針や対応を家族、かかりつけ医、職員で話し合っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人一人の状態を日頃から把握し、事故防止に努めている。定期的な研修会で初期対応や応急手当など訓練している。2年毎消防の救命講習を法人で実施している。	利用者一人ひとりの状態を把握し、事故防止に努めている。救急救命講習や看護師による随時の救急処置講習、職員の緊急連絡網の抜き打ち試行など、日頃から事故防止や事故の発生に備えている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎の自主的な消防訓練で避難が円滑にできるよう努めている。自治会長など地域の方に参加してもらったり、運営推進会議で報告を行い、関係者と意見交換を行っている。	2ヶ月毎に自主的な消防避難訓練を行っており、夜間想定で夕方6時などにも訓練を行っている。自治会長等地域の方の参加や運営推進会議での報告検討等で理解を深めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思を大切に接している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように言葉がけし、職員側の都合で介助しないようにしている。介助が必要な時には、本人に必ず確認するようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、歩行などすべてにおいて本人にあった介助方法、ペースを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容院に来所してもらったり、いきつけの美容院の希望があれば、家族の協力で行くようにしている。衣類は家族に用意してもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を採り入れながら立てている。できるだけ旬のものを入れ、季節感を感じてもらえるようにしている。できる方には食事作りから一緒に関わってもらっている。	調理や片付けなど職員と利用者で、仲良く肩を並べて行なっている。同じ物を食べながら、食事を楽しんでいる。昼食の主菜、副菜の献立は法人のデイサービスで作るが、他は利用者の意見も取り入れ、事業所で作っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた食事形態をとり、とろみやゼリーなど、そのときの状態によっても変えるようにしている。水分量も一日を通して確保できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	美味しく楽しく食事が出来る様に毎日食事後口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事摂取量や水分摂取量によりパターンは変わったりするので、完全な把握は難しいが、トイレに必ず座るようにしている。	利用者の状態、様子を見ながら、トイレで排泄できるよう支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎身体操をしたり、散歩をするなど身体を動かすことと、食事でも食物繊維の多い食材を多く使うよう心がけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が利用者の意向や心身の状態を把握する事で入浴を決めている。	毎日午後1時～4時を入浴時間としている。日ごとに、おおよその入浴順を決めているが、利用者の状態や希望を聞きながら対応し、入りたくない時は時間を置き、タイミングや利用者の気持ちを大切にして入浴できる様に支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時の状況に応じて、本人のペースで休息できるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用は職員全員で確認し、薬の副作用については知識の習得に努めている。症状の変化は、その都度かかりつけ医に報告・相談し指示を受けている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意なこと、好きなことを職員が把握して、個々にあった支援を大切にしている。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、食事の準備、片付けなど家事活動や、編み物、手芸、お手玉作りなどの手仕事、花を生けたり、ハーモニカや三味線を楽しむ事など、利用者が得意とする事を生かして楽しく生活できるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけたり、家族の協力で外出したり、本人の意向を大切にしたい支援を心がけている。	海を見渡せる団地内を日常的に散歩したり、ドライブや外食、買物、季節の行事など外出の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を所持したり、使えるように支援している。又職員が代理で利用者様の買い物(必要なもの)を行ったりもする。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら大切な人に電話したいと要望があれば支援している。(手紙も同様)電話や手紙が難しい場合は、職員が要望を聴き、相手様に伝えている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感として、その季節にあった貼り絵や絵を展示したり、花を飾るなどしている。生活感として、利用者様が生活しやすいように必要な物品などは取り揃えている。	台所は利用者も自由に出入りでき、片付けや調理に参加しやすい造りになっている。食堂兼居間でもある共用空間は、居場所も確保され、利用者同士おしゃべりやふれあいを深めながら過ごしている。壁掛けテレビや書棚、壁面には季節に応じた展示物や作品を飾り、季節の花を飾るなど和やかに居心地よく過ごせるように工夫されている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の席を決めることで、一人の空間がつくれったり、気の合う利用者同士が語り合う場がつくられている。職員が利用者様の思いに配慮しながら、居場所を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れたダンスやベッドを置いたり、趣味のものや自ら作成した絵などを壁に貼ることにより、居心地のよい環境がつくられている。	ベッド、ダンス、椅子、仏壇、衣装かけなど本人の馴染みのものや好みのものを持ち込み、作品や写真、小物、ヒヤシンスの水栽培などを飾り、居心地のよく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行器を使用し、本人の持っている残存能力を活かし歩行をしている。食後の下膳など、出来る事は職員の見守りにて行い、ADLの向上に努めている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあかしあ保津

作成日： 平成 23年 2月 8日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	玄関の施錠について、鍵がかかっていることで利用者が閉塞感を感じる場合も考えられる。	身体拘束の意味合いを職員全員が正しく理解し、無意識に身体拘束につながらないようにする。閉塞感を感じないように、利用者の思いを大切に、外出に付き添うなど細かな対応をしていく。	目が届きにくい時間帯以外は施錠せず、気候の良い時季には開放しておくなどの工夫をする。 離設(行方不明)マニュアルを作成し、職員全員が理解する。	1ヶ月
2	7	身体拘束マニュアルの内容を充実させる。現在11項目が記載されていないなど不備な点がある。	身体拘束の意味合いを職員全員が正しく理解し、無意識に身体拘束につながらないようにする。	早速マニュアルを整備し、職員全員が理解できるようにする。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。